

9

易しい古文を読む

確認問題

① 次の古文とその口語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、いつのころほひの事にかありけむ、清水に参りたりける女の、幼き子を抱きて御堂の前の谷をのぞき立ちけるが、いかにしけるやありけむ、児を取り落として谷に落とし入れてけり。遙かに振り落とさるるを見て、すべき様も無くて、御堂の方に向きて、手を摺りて、「観音助け給へ」となむ迷ひける。

「今はなきもの」と思ひけれども、「有様をも見む」と思ひて、迷ひ下りて見ければ、観音の「いとほし」とおぼしめしけるにこそは、つゆ傷も無くて、谷の底の木の葉の多く落ち積もれる上に落ち懸かりてなむ臥したりける。

母喜びながら抱き取りて、いよいよ観音を泣く泣く礼拝し奉りけり。

此を見る人、皆あさましがりてののしりけり、となむ語り伝へたるとや。

《口語訳》

今は昔、いつごろのことであつたらうか、清水寺に参詣した女で、幼い子供を抱いて御堂の前の谷をのぞいて立っていたのが、どうしたはずみだろうか、子供を落として谷に落としてしまった。はるか下の方に落とされるのを見て、どうしようもなく、御堂の方に向かって、手をすり合わせ、「観音様、お助けください。」と半狂乱になった。「もはや亡き者」とは思ったけれど、「(せめてどうなった

か) 様子だけでも見よう。」とあって、うろたえながら下りていつてみると、観音様が「※」とお思いになったのだろうか。

(子供は) まったく傷もなくて、谷の底の木の葉がたくさん落ちて積もっている上にふんわりと落ちて倒れていたのだった。

母は喜びながら抱き上げて、ますます観音様を、泣く泣く拝み奉った。

これを見る人はみな、不思議がつて②大騒ぎして話し合った、と語り伝えているとかいうことだ。

① — 線①「なむ迷ひける」を現代かなづかいに直して、すべてひらがなで書きなさい。

② ※ に入る最も適切な言葉を次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 残念だ
イ いじらしいことだ
ウ つらいことだ
エ 気の毒だ

③ — 線②「大騒ぎして話し合った」の部分は、古文のどの部分を訳したのですか。古文中から当てはまる部分を書き抜いて答えなさい。

② 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

孟宗（もうそう）はいとけなくして父（父に先立たれ）に後れ、ひとりの母を養へるに、母、年

老いてつねに病（病気がち）みいたはり、食①のあぢはひも度（たび）ごとに変はりければ、②よしなき物を望めり。

※ のことなるに、竹子（たけのこ）をほしく

思へり。すなはち孟宗竹林に行き求むれども、雪深き折なれば、（竹の子が採れようはずもなかつた）などかたやすく得べき。③ひとへに天道（たのてん）の御あはれみを頼みたて

まつるとて祈りをかけておほき（おほい）に悲しみ、竹に寄り添ひけるところ

に、にはかに大地ひらけて、竹子あまた生（たくさん）ひ出（い）ではべりける。おほ

きに喜び、④すなはち取りて帰り、あつものにつくり、母に与へは

べりければ、母、これを食してそのまま病も癒（い）へて、齢（よほひ）を延べたり。

これ、ひとへに孝行の深き心を感じて、天道より与へ給（たま）へり。

〈御伽草子〉より

10

□(1) — 線①「あぢはひ」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□(2) — 線②「よしなき物」とは、どんなものですか。次から適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア とてもおいしいもの。
 イ とても高価なもの。
 ウ 求めようのないもの。
 エ わけのわからないもの。

□(3) ※ に入る季節として適切なものを、漢字一字で書きなさい。

□(4) — 線③「ひとへに」から始まる孟宗の心の中の言葉はどこまで続いていますか。その最後の五字を書き抜いて答えなさい。

□(5) — 線④「すなはち」ということは現代語にもありますが、古語では違った意味で使われます。文脈から考えて、ここでの意味として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア しばらくして
 イ その後
 ウ すぐに
 エ そのころ

□(6) この文章から導かれる教訓として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 親子のきずなはかたいという教訓。
 イ 孝心は天に通ずるという教訓。
 ウ 自然の恩恵は偉大であるという教訓。
 エ 不幸は幸福の種になるという教訓。